

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

学校名	城陽市立今池小学校							校長名	松野 直記
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	3 2 5 名
学級数	2	2	2	2	2	2	5		
事業担当教員名	藪内 達也								
① 中学校区で目指す子ども像		・互いに認め合い、自ら考え行動する 自ら考え学び合う子 ・人と人とのつながりを大事にし、お互いを思いやりながら高め合える関係性を築き、社会の中で生きる力をもった子 これまで西城陽中学校ブロックで研究を進めてきた「学び合い」を軸に、ICT 機器を活用して、「自分で考える力」「自分で学ぶ力」をさらに育んでいきたい。							
② 目指す子ども像		【よく考える子】 ・自ら課題を見つけ、これまでに学んだ知識を活かして、問題や課題を解決できる。 ・自分の思いや考えを表現したり、相手に伝えたりすることができる。 ・様々なことに興味を持ち、自ら調べたり、考えたりすることができる。 ・学びに対して主体的に取り組み、自ら学びを広げることができる。 【助け合う子】 ・「思いやり」と「感謝」の気持ちを大切に、他者と関わりをもつことができる。 ・友達のよいところを見つけ、互いに認め合うことができる。 ・困っている人がいたら、手を差し伸べることができる。 ・友達の思いや考えを尊重できる。 【体をきたえる子】 ・規則正しい生活習慣を身につけ、健康に気をつけて生活できる。 ・自他の命を大切に、安全に気をつけて生活できる。 ・運動を通して、たくましい体や心をつくる							
③ 目指す子ども像に対する現状と課題		・90%近い児童が、学校は楽しいと回答している一方で学校に対して、ネガティブな回答をしている児童の割合が増えてきている。（なんとなく楽しいと思えない。） ・与えられた課題に対しては前向きに取り組むことができる。一方で、自分で課題を見付けたり、学習と生活を結び付けたりする力が弱い。 ・自分で課題を設定して、自主的に学習を進めることが苦手な児童が多い。（具体的に指示されなければ、何をしたらよいのかわからない） ・各学年で、「読み・書き・四則計算」といった基礎学力の積み上げを苦手としている児童の割合が多い。（市標準学力調査より） ・休み時間に外で遊ぶ児童が多い。 ・授業中は、規律を守り落ち着いて学習に向かうことができる。 ・異年齢集団の縦割り班（スマイル班活動）での取組を低学年が楽しみにしている。 ・家庭の支援が期待できない。（家庭の教育力が低い：就学援助受給率が高い約 30%） ・朝ごはんを食べて来ていない児童が 10%以上いる。 ・ゲーム・テレビ・YouTube・スマホの利用時間が長い。（生活調査より） ・世の中の出来事やニュースを知らなかったり、興味がもてなかったりする児童が多い。また、コミュニティが狭く、価値観が偏っていたり、考えが広がりにくかったりするところがある。（家庭の教育力の低さに起因する部分も大きい。）							

④ 目指す子ども像に達するための仮説	研究仮説「探究的な学びで子どもたちは変わるのか」 (1)「変わる」を見る視点 ・探究的な学びは子供達の好奇心を刺激するのか（学びのパスポートより） ・好奇心が高まると学力に変化は見られるのか（標準学力調査より） ・コミュニケーション力が高まると、生徒指導事象は減少するのか ・コミュニケーション力が高まると、高学年も異年齢集団活動を楽しめるのか ・学びを調整する活動を意図的に取り入れることで、メタ認知の働かせ方に変化は生まれるのか（より深化することはできるか） ・総合的な学習で探究活動を取り入れ、他者と関わる力を高めることは、他の教科の学び方や学習への考え方に影響を与えるのか（国語：話す・聞く・書くなど）（算数：活用など） - 学習方法の多様性を指導し、自分で学習方法を選択する経験を積み重ねると、他教科でも学び方は変わるのか（学習方法：精緻化） ・探究活動を積み重ねると、算数の活用する力は向上するのか ・総合的な学習で思考ツールなど、さまざまな表現方法を学び、自分の意思で使えるようになると自分の意見を表現する力は上がるのか (2)「変わる」を見とる手段 ・学びのパスポート 4～6年（令和6年8月→令和7年8月 結果の変化を追う） ・1～3年生 非認知能力及び学習方法調査（7月） ・学びのパスポート分析（7・8月） ・学びのパスポートの分析に基づく各学級の実践と修正（9月～3月 ロイロノートを使ってかんたんな振り返りを行う） ・標準学力調査（12月） ・標準学力調査分析（2月） ・全学年 非認知能力及び学習方法調査・来年度に向けての改善プランの見直し（3月）
--------------------	--

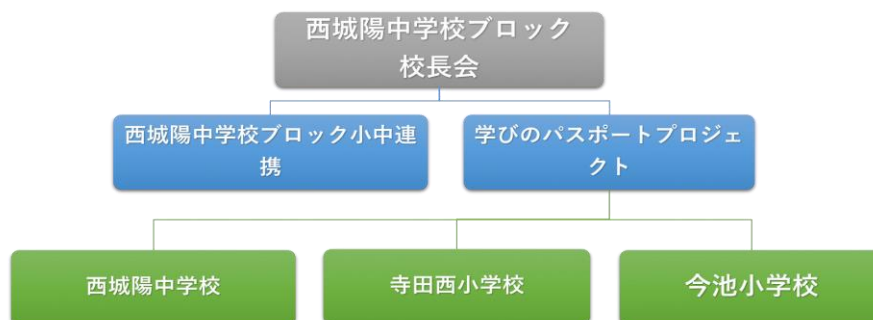
令和6年5月1日現在

【1 研究主題】

探究的な学び × 健康安全教育
～ つながろう 今池っ子 ～

【2 研究組織体制】

（1）中学校ブロックの組織体制



（2）校内の組織体制



【3 研究計画・具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	校内研修 「生徒指導 思いやりと感謝の心を育てる 学級運営」 校内研修 「学級分析・探究について」 校内研修 「健康安全教育とは」 校内研修 「支援を要する児童についての交流会」 研究推進だよりの発行「探究」
5 月	学びのパスポート 実施 学びのパスポートプロジェクト 拡大研究推進部 会議 「今年度方針の確認」
6 月	1～3年 非認知能力および学習方法に関するアンケートの実施
7 月	1 学期のふりかえり 生徒指導交流
8 月	8 月上旬＊学びのパスポート結果返却、第 1 回分析・活用研修会 拡大研究推進部会 校内研修 「学びのパスポートについて」 → 各学年で分析 校内研修 「探究的な学びについて」※府教委から講師招聘 校内研修 「総合的な学習の単元づくり」 教材研究会 西城陽中学校ブロック夏季合同研修会(学びのパスポートプロジェクト)
9 月	研究授業1. 2 学びのパスポート分析に基づく学級での実践
10 月	研究授業3. 4 10 月上旬＊第 2 回分析・活用研修会 実践内容の周知・確認・修正
11 月	研究授業5. 6 1～6 年 標準学力調査 実施 寺田西小学校 府小研 家庭科部会 3 年次本発表への参加
12 月	一斉 事後研究会 校内研修 「今年度の修正と 来年度の見通し」 標準学力調査 全学年実施 学びのパスポートプロジェクト
1 月	＊研究校交流会（予定）
2 月	拡大研究推進部会 「今年度の総括」 校内研修 「標準学力調査分析」 三部会 「今年度のまとめと来年度の展望」
3 月	拡大研究推進部会 「来年度の方針について」

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
1～6	37	新しいことに取り組むときはわくわくする。	好奇心	研究主題に関わる
1～6	40	誰とでも仲良くできる。	他者と進んで関わろうとする態度	コミュニケーション
1～6	59	普段の生活の中で、自分の考えを自由に話すことができる。	心理的安全性	中学校ブロック共通
4～6	72	学習するときは、教科書以外にも辞書・図鑑・参考書・プリントなど色々なものを参考にして情報を集めている。	精緻化	研究主題に関わる

＊ 5・6 の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

A

しないといけないことを明らかにし、取り組ませて必ず提出させる。生徒指導事象が発生したときには自分の言動をその都度振り替えさせる。授業中、集中が続かなくても自分にもできることはある、他の友達と同じように頑張らないといけない、人の役に立てるという経験を積ませていく。

B

普段の様子からは元気で活発な印象があるが、一方で心理的安全性の低さが気になる児童である。賑やかであるが故に仕事腕注意を多く受ける場面もあったのだろうか。注意をする前に注意を受けざるを得ないような環境を見直し、学びに対する気持ちや計画性を高めていきたい。

C

アンケートに対しての字画や理解が足りていないのか、心理的安全性においてすべての質問項目に①を回答していた。本当に自分の気持ちで答えているのか、何を問われているのかがわからないのか見極める必要がある。2学期以降は発表や主体的な活動を増やし、自分らしさを発揮できるよう・自覚できる場を増やしていく必要がある。

D

「学校は楽しいですか2」「国語は好きですか1」「算数は好きですか1」を回答している。事業や学びに対する意欲が低く見られる。生徒指導事象も多くなにかうまくいかなことがあるのかもしれない。困りに寄り添い、安心して過ごせる環境とは何かを一緒に考えたい。

E

家庭との連携も難しいが、気持ちよく学校へ登校できるよう家庭との連携をこちらから積極的に取っていかなくてはならない。

F

そもそも自己理解の力が弱い。なかなか自信を持つことができない。できたことを細かく見つけ、価値付けてあげることが必要。学びの楽しさを意識的に気付かせ、わかって楽しい思いをたくさん持たせてあげたい。

集団としての指導・支援方法

①6年生

自信を持たせること・友達とよりよい関係を作れることを2学期では重視したい。運動会や駅伝など行事ごとがたくさんあり、その機会をうまく使う。また、友達との関係作りでは、子どもとよく話をして大人との良い関係を気付かせる。何でも話せる関係作りから、子ども同士がつながる力を向上させていきたい。

②5年生

「中間層」へ本格的にアプローチを展開する。少し背伸びした目標を提示し、できた自信を積み重ねさせる。全体的には、良くも悪くも流されやすい。よいものを目指すために自分が頑張る意識が足りない。さらにがむしゃらさがほしい。無難に終わってこなすのではなく、「自分たちはどうありたいのか、下級生にどのように見られたいのか」を常に問いかけ続け、一生懸命頑張る良さを感じさせたい。

③4年生

「学校は楽しい場所だ」と感じてほしい。現在楽しく感じる子がたくさんいるので、そのまま楽しく過ごせるよう指導を積み重ねていきたい。

【8 仮説の修正】

・引き続き、「探究的な学びで子ども達は変わるのか」という研究仮説で取り組んでいきたい。
学校全体で、探究的な学びの活動を様々な学習の中で取り入れていくことを共有することで、子ども達が自発的に興味を持ち、問いを立て、実践していくという力を付けていけるようにしたい。
また、本校がこれまで大切にしてきた「コミュニケーション・つながる力」、「思いやりと感謝」についても引き続き、学校全体で共有していきたい。

【9 具体的な取組内容の修正】

【探究的な学びを学校全体で充実させていくために】

・ ペア活動、グループ活動、個人の調べ学習など一つ一つの学習活動のねらいを明確にする。適切な課題を設定し、課題をステップアップしながら、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を繰り返すことで、子ども達の好奇心や意欲の向上につなげる。
・ 学習の振り返りの重視。→振り返りを通じて学んだことや学び方を自覚させる。自分が学んだことは何か、さらに学びたいことは何かを自分の言葉で、自分の伝え方で表す。
・ 学力の取組に関しては、今年度始まったものが多いため標準学力調査の分析を経て変遷を追う。
非認知の取組に関しては、特に学校として設けていないが、毎年ある学びのパスポートの調査、また本校独自で行っている非認知の調査を経て一人一人を理解する手立ての一つとして活用していく。
・ 探究活動を通しての変化の見取りをどのように見取るのかさらに具体化する必要がある。拡大研究推進部を中心にさらに練り上げていく。

【10 児童の変容（普段の様子から）】

・ 校内で、5・6年生中心に、ロイロノートのアンケート機能を用いて、「総合的な学習の時間」に関するアンケートを実施したところ、90%以上の児童が「総合が好きである」と回答した。
5・6年生で普段の学習の様子を見てみると、「協力」「話し合い」など友達と関わり合うことに楽しさを感じている児童が多い。また、「まとめる」「作る」「発表」「考え」など、探究的な思考を必要とする作業に楽しさを感じている児童も多い。

【各学年の1年間の総括】

4年：自分たちで意見をまとめて発表できるようになった。
全校に向けて発表するなど、規模が大きくなればなるほど、やる気を出す様子が見られた。
5年：自分について深く考えたり、友達からの意見を聞いたりする活動を通して、自分の新たな一面に気付くことができた。また、「自分の良いところを伝え合う」という活動を通して、それぞれが自分のことを見つめ直すきっかけとなった。
6年：自分たちで調べたり、まとめたり、相手を意識して発表したりする活動を何回も行うことができ、良い経験を積むことができた。何かわからないことがあったら、調べてみようという気持ちの児童が増えた。
・ それぞれの学年で、実施単元や発達段階が異なっているにも関わらず、児童が主体的に取り組む様子が見られ、変化として挙げられている。

【11 2年次の研究構想】

・ 引き続き、三部で連携して“つながり・コミュニケーション”“思いやりと感謝”を大切にしたい。
・ 心理的安全性を基盤に、心理的安全性+ α を考えていきたい。
→精緻化・好奇心
※特に低学年では好奇心を、中学年以上は精緻化を中心に見ていきたい。
・ 来年度から、本格的に健康安全の研究に入っていくが、探究活動を進めていく上でも心理的安全性は不可欠である。
・ 学校行事・取組・授業などあらゆる活動の中で“子どもの声や考え”を大切にしたい。
・ 心理的安全性+好奇心・精緻化→探究活動を通して、子ども達がどのように変わるのか（※特に中間層）を学校全体で見していきたい。（分析+共有）